

米国

金融政策動向（2021年3月）

緩和姿勢継続を改めて強調、長期金利抑制には言及せず

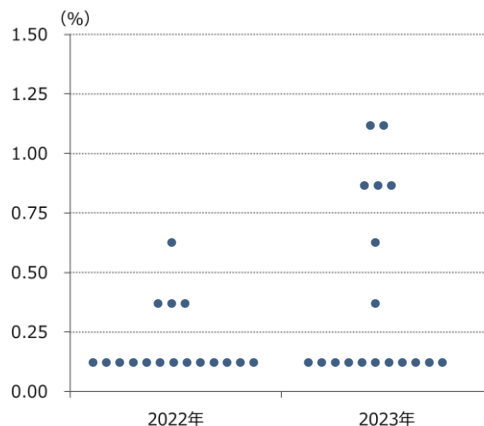
政策・経済センター
田中 高夫
03-6858-2717

1 FOMC参加者の経済見通し

		前回 (20年12月)	今回
GDP成長率 (%)	21年	4.2	6.5
	22年	3.2	3.3
	23年	2.4	2.2
インフレ率 (%)	21年	1.8	2.4
	22年	1.9	2.0
	23年	2.0	2.1
失業率 (%)	21年	5.0	4.5
	22年	4.2	3.9
	23年	3.7	3.5

注：FOMC参加者の中央値。各委員の予測の集約であり、FOMC公式としての予測ではない。出所：FRB

2 FOMC参加者の政策金利見通し



注：上図の青い円は、各水準を適切であるとするFOMC参加者を表す。出所：FRB

評価ポイント

決定事項

- 3月16-17日に実施された連邦公開市場委員会（以下、FOMC）の結果、連邦準備制度理事会（以下、FRB）は、資産購入を現行ペースで継続すること、政策金利の誘導目標を0.00-0.25%に据え置くことを決定した。
- 3月末に終了予定の「補完的レバレッジ比率の条件緩和（金融機関のレバレッジ比率計算の分母から米国債と準備預金を除外を認める方針）」の延長については、記者会見の中で「数日以内に発表する」と言及された。延長がない場合、金融機関の国債購入が減少し、長期金利がさらに上昇する可能性がある。

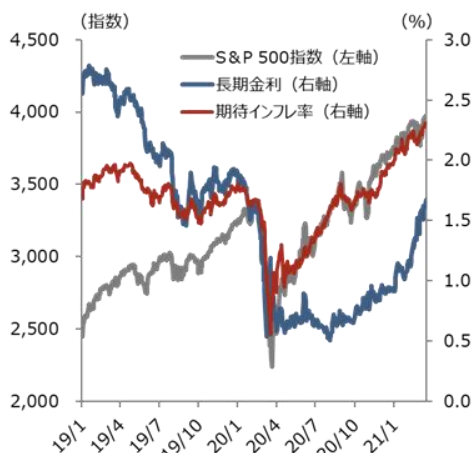
経済見通し

- FOMC参加者の経済見通しでは、ワクチン接種や大規模財政支出による景気回復下支え期待から、特に21年のGDP成長率や失業率が大幅に上方修正された（図表1）。インフレ率は年内にも平均インフレ率目標である2%を超えると予測しているが、会見の中では、21年の物価上昇は構造的なものではなく一時的なもので、それにより政策金利が引き上げられることはないと改めて強調された。
- 政策金利見通しでは23年以前の利上げを見込む参加者数が増加したが、中央値ではゼロ金利を23年末まで継続する見通しが維持された（図表2）。

今後の注目点

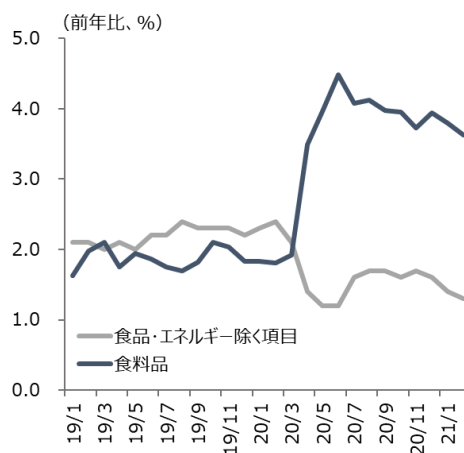
- 最近の長期金利や期待インフレ率の上昇（図表3）を受け、市場の一部では早期の金融引き締めが示唆されるのではないかと見方もあったが、今回のFOMCでは改めて緩和的な金融政策を維持することが強調された。また、長期金利抑制などの方針は示されず、市場の警戒感とは裏腹に、FRBとしては物価上昇を織り込んだ長期金利上昇は想定範囲内と黙認した形だ。
- もっとも財政支出による消費過熱により、現状低位な食品・エネルギーを除く項目の物価までも構造的に上昇する事態や（図表4）、FRBと市場のインフレ予想のズレにより長期金利がさらに上昇する事態となれば、23年以前にも引き締めにかざるを得ない事態も考えられ、今後も動向を注視していく必要がある。

3 米国金融市場の動向



注：期待インフレ率は普通国債と物価連動国債の利回り差であるBEI。直近は3/18。出所：Bloomberg

4 米国物価上昇率



出所：米国労働省